清水隆則先生・青木惠理子先生の退職記念号によせて

龍谷大学社会学部学会会長　井　上　辰　樹

2021 年度末をもって 2 名の教授が本学を定年退職されることとなりました。コロナ禍の中で最終年を迎えられ，オンライン等の対応にご負担をおかけしたものと察しております。

感謝と惜別の想いを込めつつ，以下，本学へのご着任順に退職の先生方を簡単にご紹介します。

現代福祉学科教授の清水隆則先生は，1999 年（平成 11 年）に社会学部助教授としてご着任以降，教育，研究活動のみならず学部運営に多大な功績を残されています。2015 年度から 2016 年度にわたり大学院研究科長の職責も果たされました。清水先生は，ご専門であるソーシャルワーク領域の研究を深められ，その対象は国内に限らず，英国のコミュニティーワーカーなど国際的にも広く研究活動を成されています。また，業績も数多く，学会においても責任ある立場を担われました。

社会学科教授の青木惠理子先生は，2000 年（平成 12 年）に社会学部助教授としてご着任以降，教育，研究活動のみならず学部運営に大きな功績を残されています。2010～11 年度，2015～16 年度では大学院研究科執行部としての職責も果たされました。青木先生は，ご専門である文化人類学領域を深められ，多くの業績を残し，学会の各種委員会等でも責任ある立場を担われました。対象はインドネシア・フローレス島の村々のくらしを始め，在日コリアン，在日日系ブラジル人の子供たち，在日インドネシア人介護福祉士・看護師など多岐にわたり，2014 年からは生のアートの領域でも精力的に研究活動を推進されています。

瀬田キャンパス開設時に創設された社会学部は 2019 年に開学 30 周年を迎えましたが，両先生が在籍された 20 数年の間に，コミュニティマネジメント学科の設置，社会福祉学科が臨床福祉学科，地域福祉学科の 2 学科展開を経て現代福祉学科へと統合されるなど大きな変遷を遂げ，2021 年度には深草キャンパスへの移転（2025 年度）が意思決定されました。この間の重要な決断と改革には，両先生のお力添えがあったことを認識しております。

先生方の略歴に触れる中で感じたことは，各先生が様々な境界を超えた視座の高い教育，研究，社会貢献を行われていたことです。これは社会学部の掲げている現場主義に多角的な視点を与え，より良い社会の追究に強く資するものとして，学生のみならず教員にも知的な刺激を与えて下さいました。先生方の退職は学部にとって極めて大きな喪失となりました。個人的にも 2 号館，6 号館，おうみ会の会場などで先生方とお話しさせていただいたことなどが思い出され寂しさが募ります。先生方の不在の意味は，時を経てあらためて感じることになると存じますが，その功績は明確に今後の社会学部発展の貴重な財産として活かされて参ります。

清水先生，青木先生並びに他のご退職，ご退任の先生方のご健康とご多幸を願いつつ，これまでのご貢献に対し心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

清水隆則　教授　略歴

清水（しみず）　隆則（たかのり）



学　　歴

大阪大学人間科学部人間科学科卒業
大阪市役所福祉事務所ケースワーカー，保健所職員等を経て，吉備国際大学社会福祉学部社会福祉学科助教授
龍谷大学社会学部地域福祉学科助教授
同　　社会学部現代福祉学科教授
同　　社会学研究科長

その間，英国サザンプトン大学ソーシャルワーク学科客員研究員
英国ロンドン大学バーベック児童家庭社会問題研究所客員研究員
京都女子大学生活福祉学科非常勤講師

独立行政法人「大学改革支援・学位授与機構」専門委員
社会福祉士国家試験委員
日本社会福祉学会機関紙査読委員
日本仏教社会福祉学会機関紙編集委員
草津市介護保険運営委員会委員長
守山市介護保険運営委員会委員長

著　　作

「ソーシャルワーカー論研究－人間学的考察－」（単著）
「社会福祉実践とアドボカシー」（共編著）
「ソーシャルワーカーにおけるバーンアウト」（共編著）
「コミュニティ・ソーシャルワーク」（共監訳）
「援助を求めないクライエントへの対応」（監訳）
「英国の児童家庭福祉政策」（監訳）
「コミュニティ・プロファイリング」（監訳）

等

青木恵理子　教授　略歴

青　木　恵理子（あおき　えりこ）



1953 年東京都葛飾区に生まれ，24 歳まで暮らす。場所は漫画『こち亀』の亀有にも，映画『フーテンの寅さん』の柴又にも徒歩圏内。浅草フランス座に出演していたコメディアンがご近所さん。同劇場の台本を書いていた井上ひさしも近くに住んでいたらしい。

1972 年都立小松川高校から東京大学理科 II 類に進学，1974 年同大学教養学部教養学科文化人類学分科進学。その後，同大学院社会学研究科文化人類学に進学し 1988 年博士課程修了。1993 年オーストラリア国立大学太平洋アジア研究所ドクターコースに，4 歳と 6 歳の子どもとともに留学，1996 年 Ph.D. 取得。

1995 年鈴鹿国際大学国際学部専任講師，1997 年助教授，1999 年教授。2000 年龍谷大学社会学部社会学科助教授，2002 年教授，現在に至る。

1979 年インドネシア共和国フローレス島エンデ県の山岳地帯の村々で文化人類学のフィールドワークを始める。1984 年まで計 3 年余を村々で過ごす。マラリアという病気になり現地の方たちに大変お世話になる。その後出産育児でフローレス島にいけない時期を経て 1990 年代末からほぼ毎年 1 カ月弱フローレスの村々で過ごすようになる。コロナ・パンデミックが終り，再訪できることを心待ちにしている。1990 年代から在日コリアンの子どもたち，在日日系南米人の子どもたち，2007 年から旧産炭地社会の研究，2009 年から在日インドネシア人介護福祉士・看護師，2015 年から障害者施設でのアート作品作成をはじめとしたアートについての人類学研究を行っている。記号，詩的言語，ジェンダー・セクシュアリティ，身体，ケア，もの，宗教，アート等を研究テーマとしている。三池炭鉱閉山 50 年展を関西在住の市民の人たちと開催するなどの研究関連の社会活動もおこなってきた。

主な研究業績

1996　Piercing the Sky, Cutting the Earth : the Poetics of Knowledge and the Paradox of Power among the Wologai of Central Flores. Ph.D. thesis submitted to the Australian National University.

2005　『生を織りなすポエティクス』世界思想社（単著）

2018　『女たちの翼：アジア初期近代における女のリテラシーと境界侵犯的活動』ナカニシヤ出版（青木恵理子編著）

2021　*Arts in the Margins of World Encounters.* Wilmington : Vernon Press.（edited by Willemijn de Jong, Eriko Aoki and John Clammer.）（peer reviewed）

2022　『アートの根っこ：想像・妄想・創造・捏造を社会に放つ』晃洋書房（青木恵理子編著）